

“ 病者訪問で日頃思うこと。 ”

田中静子

令和5年も病者訪問に行かせていただきました。
ホームケア・タウンにお1人、個人のお宅 2軒、月に1回の訪問です。

対面する迄、お相手の健康状態を想像しながら伺います。実際お会いして、お変わりなく明るい雰
囲気で迎えて下さると 嬉しくて、こちら迄元気をもらいます。

もし、私が訪問を受ける立場だったらと 他人ごとではなく、
ワクワクした気分で待っていると思います。神父様のお話で生きる勇気を頂いたり、
日頃感じておられることを聞いてもらったり、教会に向向いて行けない人にとって
その時間が至福の時でしょう。



感謝の心で生かされていると感じながらも、早くお迎えに来てほしいと望んでおられる方には、ま
だ、廻りの人に愛の精神で接することが、足りてないのではないかと、その仕事はまだ残ってい
ます。とおっしゃいます。

ほどよくあるがままに生きる。思いようで人は幸せになったり、不幸に感じたりします。長寿社会
となり、老後の介護が問題になっています。自分の能力が衰えてきたら、おとなしく周りの人に従う
よう心がけたく思います。その切り替えが難しいです。徐々に衰えますから

いつも喜んでいなさい。たえず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。

(1 テサロニケ 5・16)

日々心穏やかに過ごせますように!!

五 感(蒼野 しほ)

毎日がとくべつな日
毎日が尊い日
それは五感を輝かせて
ゆっくり生きる事
味わって生きることなのです。

